

5. スターチス

・殺菌剤

FRACコード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
10+1	ゲッター水和剤	散布	-	5回以内	花き類・観葉植物(ひまわり、ゼラニウムを除く)
9	フルピカフロアブル	散布	発病初期	5回以内	
M7+19	ポリベリン水和剤	散布	発病初期	8回以内	

・殺菌剤 (参考農薬)

FRACコード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
M1	サンヨール	散布	開花前まで	8回以内	
19	ポリオキシシンAL水溶剤	散布	発病初期	8回以内	花き類・観葉植物

・殺虫剤 (参考農薬)

IRACコード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
3	アディオンフロアブル	散布	-	6回以内	
15	カスケード乳剤	散布	発生初期	3回以内	

- 注1) 使用回数はその薬剤の使用回数を記載しており、この他に薬剤に含まれる成分毎に、総使用回数が決められているので、農薬ラベル等を確認してそれを超えないように注意する。
- 注2) 薬剤抵抗性の出現を防ぐため、「FRACコード」や「IRACコード」を参考にしながら他系統剤とのローテーション使用を心掛ける(「薬剤抵抗性管理」参照)。
- 注3) 農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。
- 注4) 蚕毒・魚毒については、「28. 花き類の総括注意」も参照する。

病害虫名 (F : 菌類病、B : 細菌病、V : ウイルス病、O : その他の病原体)

病害虫名	防除時期	防 除 方 法	注 意 事 項
灰色かび病 (F)	生育期間	1. 施設内が過湿にならないよう密植を避け、換気を図る。 2. 株元の枯死葉は伝染源になるので除去する。 3. 発病を見たら、直ちに罹病部を除去し、薬剤を散布する。 4. ポリベリン水和剤、ゲッター水和剤の1,000倍液、フルピカフロアブル2,000倍液のいずれかを散布する。 5. 除湿機を利用すると発病軽減できるが、完全な防除は困難である。薬剤を併用すると散布回数の削減と防除が可能である。 [参考農薬] 1. サンヨール500倍、又はポリオキシシンAL水溶剤2,500倍液を散布する。	1. 薬剤耐性菌の出現を避けるため、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布する。 2. 除湿機を利用する場合の注意事項を参照する。
ウイルス性病害 (V)	生育期間	1. ウイルス感染苗による伝播は広範囲に及ぶため、ウイルスフリー苗を用いる。 2. アブラムシ類防除のため、「25. 花き類・観葉植物」の項を参考に、定期的に殺虫剤を散布する。シルバーストライプフィルムでマルチすることも有効である。	1. 育苗時の感染に厳重注意する。 2. 病原ウイルスにはCMV、TuMV、CYVV、BBWVなど知られているが

病害虫名	防除時期	防 除 方 法	注 意 事 項
ウイルス性 病害 (V)	生 育 期 間	<ul style="list-style-type: none"> 3. ハウス周辺の雑草は伝染源になるので定期的に除草する。 4. 罹病株から順次二次伝染が起こるので、発病株は早期に抜き取り、ほ場外に埋却する。 	<ul style="list-style-type: none"> 全てアブラムシ類により媒介される。 3. 上記の他に、GALVによるウイルス病害も県内で発生が確認されている。 4. GALVは土壌伝染するので発病ほ場では連作しない。 5. 本病が疑われる株に用いたハサミは、そのまま健全株に使用せず、洗浄して使用する。
黄化えそ病 (TSWV) えそ斑紋病 (INSV) (V)	植 付 前	<ul style="list-style-type: none"> 1. 無病苗を使用する。 	<ul style="list-style-type: none"> 1. 育苗時の感染に嚴重注意する。 2. 本ウイルスは、アザミウマ類により伝搬される。 3. TSWV、INSVには簡易診断キットが市販されているので、それらを用いて診断できる。
	生 育 期 間	<ul style="list-style-type: none"> 1. ウイルス感染苗による伝播は広範囲に及ぶため、ウイルスフリー苗を用いる。 2. アザミウマ類の飛来・増殖を徹底的に阻止する。ハウスの開口部を防虫ネット(0.4mm目合い)で被覆すると、侵入を軽減できる。 3. 殺虫剤を定期的に散布する。 4. ハウス周辺の雑草は伝染源になるので定期的に除草する。 5. 罹病株から順次二次伝染が起こるので、発病株は早期に抜き取り、ほ場外に埋却する。 	
アブラムシ類 (ウイルス媒介)	生 育 期 間	<ul style="list-style-type: none"> 1. シルバーストライプフィルムでマルチする。 	<ul style="list-style-type: none"> 1. ウイルス発病株は、早期に抜き取る。
ヨトウムシ	生 育 期 間	<p>[参考農薬]</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. アディオンフロアブル 1,500 倍液を散布する。 	<ul style="list-style-type: none"> 1. アディオンは蚕毒及び魚毒に特に注意する(特別指導事項参照)。
シロイチ モジヨトウ	生 育 期 間	<p>[参考農薬]</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. カスケード乳剤 4,000 倍液を散布する。 	<ul style="list-style-type: none"> 1. カスケードは蚕毒に特に注意する(特別指導事項参照)。 2. カスケードは、シヌアータ系の品種では薬害のおそれがあるので使用しない。